

平成29年

# 消防統計

火災統計

救急統計

救助統計

大崎地域広域行政事務組合  
消防本部

## 目 次

### 第1章 火災統計

大崎管内における火災概要

1	出火状況	1
2	死傷者	3
3	損害額	3
4	出火原因	4

### 第2章 救急統計

1	大崎管内における救急業務の実施状況	5
2	事故種別出動件数及び搬送人員の状況	6
3	救急隊別出動状況	6
4	市町別出動状況	7
5	傷病程度別、年齢別搬送人員状況	8
6	月別救急出動状況	9
7	収容先別搬送人員状況	10
8	ドクターヘリ要請件数状況	10
9	救急隊員の行った救急処置の状況	11
10	PA連携出動状況	12

### 第3章 応急手当講習会等の概要

1	講習会の開催状況	13
2	性別・年齢別受講者の状況	14
3	講習会開催の推移	15
4	講習会の効果	16

### 第4章 救助統計

	大崎管内における救助概要	17
--	--------------	----

# 第1章 火災統計

## 大崎管内における火災概要

### 1 出火状況

平成29年中における総出火件数は66件（前年比19件減）であり、約5.5日に1件の割合で発生したことになります。（表1）

表1 市町別火災件数

	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	計
平成29年	35	4	10	10	7	66
平成28年	61	2	8	6	8	85
前年比	-26	2	2	4	-1	-19

火災種別ごとの出火件数は、建物火災が37件（前年比13件減）56.1%，林野火災が0件（前年比3件減），車両火災が12件（前年比2件減）18.1%，その他の火災が17件（前年比1件減）25.8%となりました。（図1）

また、市町別ごとの出火件数は、大崎市35件（53.0%），色麻町4件（6.0%），加美町10件（15.2%），涌谷町10件（15.2%），美里町7件（10.6%）となりました。（表2）

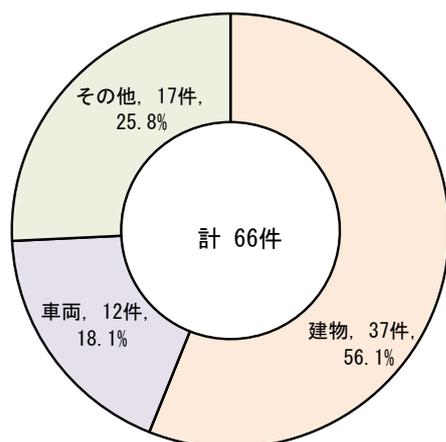
表2 市町別火災統括表

	火災件数					焼損棟数	り災		死者	負傷者	世帯数	人口
	合計	建物	林野	車両	その他		世帯	人員				
大崎市	35	22	0	7	6	44	24	65	1	3	51,164	132,321
色麻町	4	1	0	1	2	5	1	4	0	1	2,094	6,997
加美町	10	7	0	1	2	17	5	10	1	5	8,110	23,853
涌谷町	10	5	0	2	3	9	2	7	1	0	6,070	16,592
美里町	7	2	0	1	4	2	1	3	1	1	9,052	24,707
大崎圏全体	66	37	0	12	17	77	33	89	4	10	76,490	204,470

※世帯数・人口は平成29年12月末現在（宮城県住民基本台帳より）

	一万人当り出火率	損害額				焼損面積		
		総額(千円)	1件当り(千円)	一世帯当り(円)	一人当り(円)	建物面積(m <sup>2</sup> )	1件当り(m <sup>2</sup> )	林野面積(a)
大崎市	2.65	110,636	3,161	2,162	836	2,426	110.3	0
色麻町	5.72	5,485	1,371	2,619	784	128	128.0	0
加美町	4.19	64,521	6,452	7,956	2,705	1,117	159.6	0
涌谷町	6.03	16,190	1,619	2,667	976	502	100.4	0
美里町	2.83	39	6	4	2	1	0.5	0
大崎圏全体	3.23	196,871	2,983	2,574	963	4,174	112.8	0

図1 火災発生状況



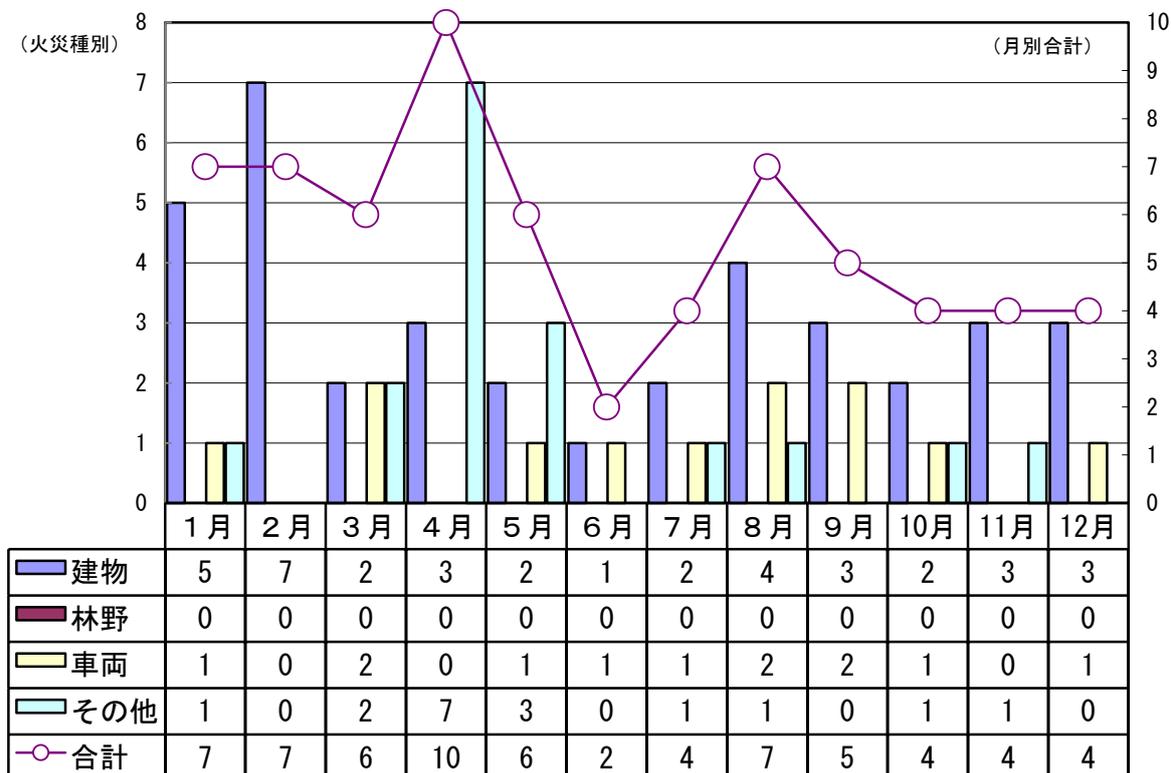
建物焼損棟数内訳	
全焼	36棟
半焼	3棟
部分焼	24棟
ぼや	14棟
<b>合計</b>	<b>77棟</b>

火災種別	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	合計
建物	22	1	7	5	2	37
林野	0	0	0	0	0	0
車両	7	1	1	2	1	12
その他	6	2	2	3	4	17
<b>合計</b>	<b>35</b>	<b>4</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>7</b>	<b>66</b>

月別の火災件数は、1月から4月までの4か月で30件の火災が発生し、火災全体の45.5%の発生状況でした。

建物火災では、1月（5件）、2月（7件）に火災が多く発生し、建物火災の32.4%（12件）を占めました。（図2）

図2 月別火災発生状況

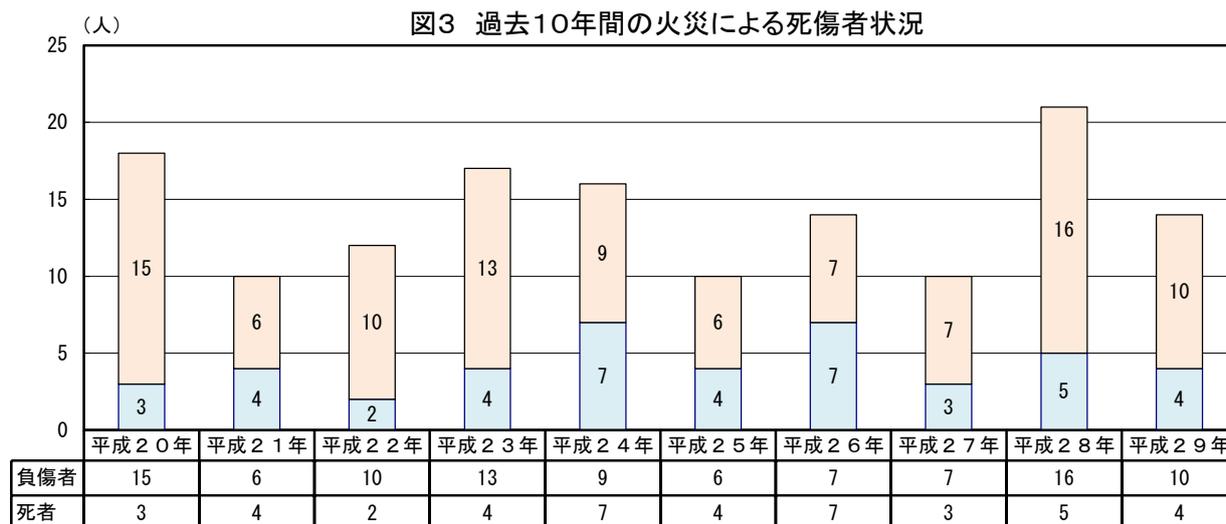


## 2 死傷者

火災による死者は4人で前年より1人減となります。

火災種別ごとの死者発生状況は、建物火災2人、車両火災2人となりました。

(図3)



火災による負傷者は10人で前年より6人減となりました。

負傷者は、消火作業中7人、避難中2人、その他1人の発生となりました。(図3)

## 3 損害額

平成29年中における火災による損害額は1億9,687万1千円で、前年と比較すると、2,889万5千円減少しました。

火災種別ごとの損害額は、建物火災が1億9,193万円、車両火災が472万7千円、その他の火災による損害が21万4千円となりました。

火災1件当たりの損害額は298万3千円となり、一世帯当たりの損害額は2,574円、住民一人当たりでは963円となりました。(表2・図4)

図4 市町別損害状況

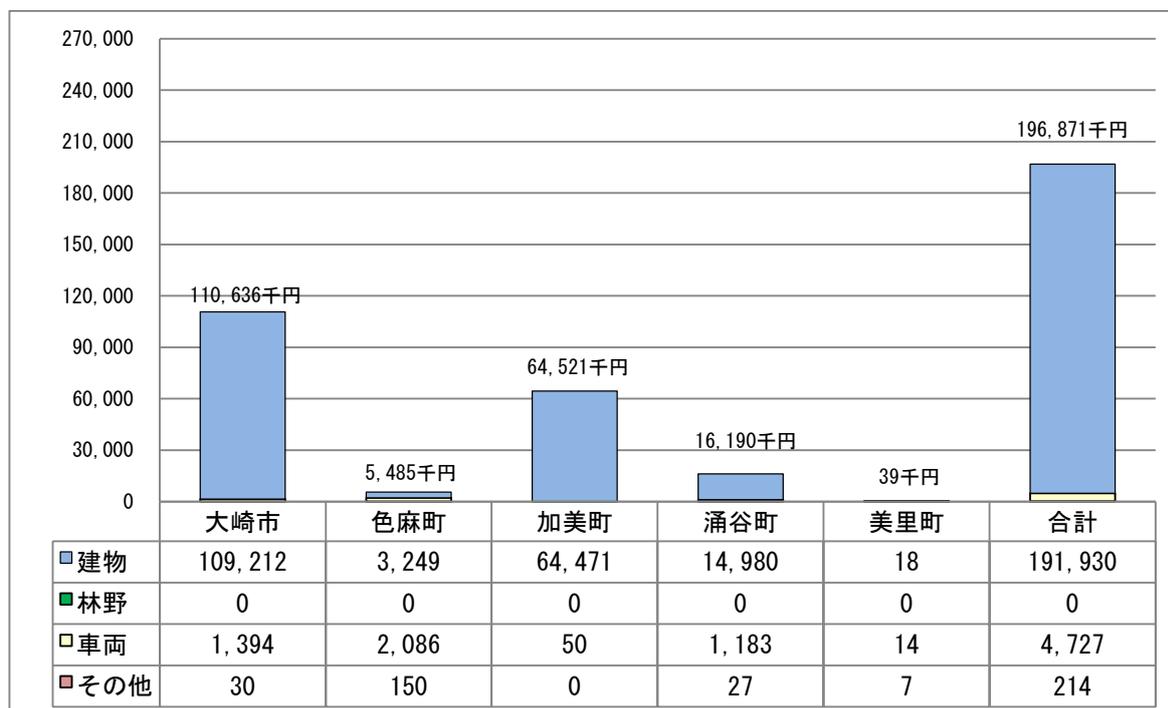
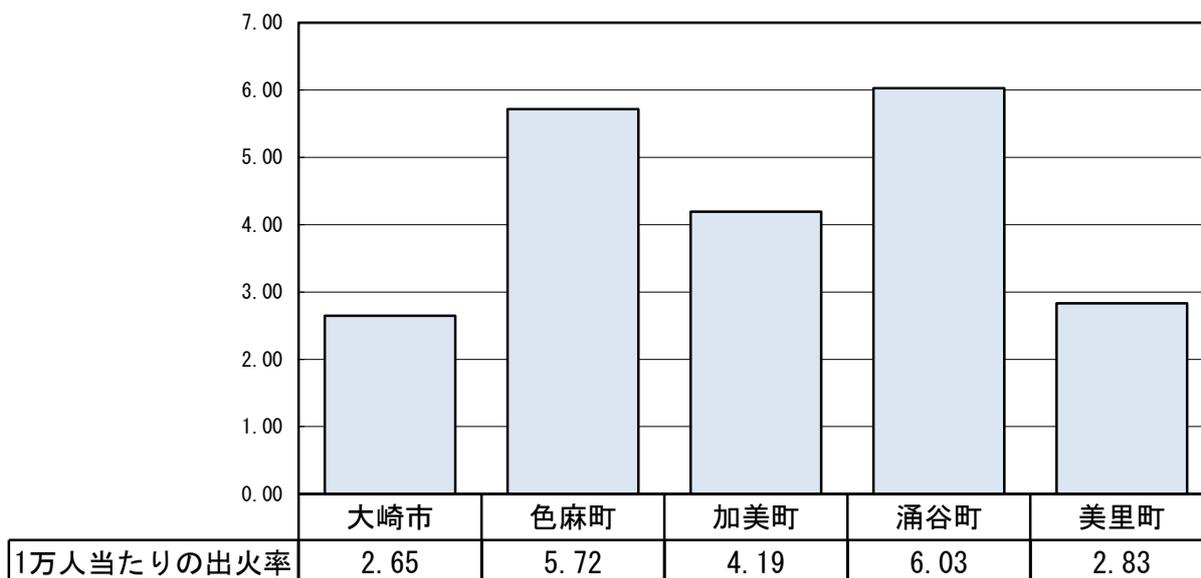


図5 1万人当たりの出火率



4 出火原因

主な出火原因は、「放火の疑い」が7件、次いで「放火」と「たばこ」が6件の順となりました。(表3)

表3 主な出火原因

	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
たばこ	14	11	8	13	5	4	6	3	5	6
コンロ	7	4	7	4	3	3	0	2	6	3
ストーブ	6	2	6	10	2	3	3	6	6	1
煙突・煙道	3	4	3	1	3	2	1	2	0	1
電気機器	0	1	3	5	5	2	1	1	1	1
電灯等配線	5	4	4	1	5	1	3	7	7	4
配線器具	1	1	1	3	1	4	2	0	3	1
火遊び	2	2	3	1	1	2	3	0	0	2
たき火	9	8	7	5	5	12	4	4	1	0
溶接・切断機	0	0	2	3	2	2	1	1	1	0
火入れ	13	8	3	8	5	12	10	10	4	2
放火	1	5	1	2	4	4	5	6	11	6
放火の疑い	15	7	2	3	6	2	7	4	5	7

## 第2章 救急統計

### 1 大崎管内における救急業務の実施状況

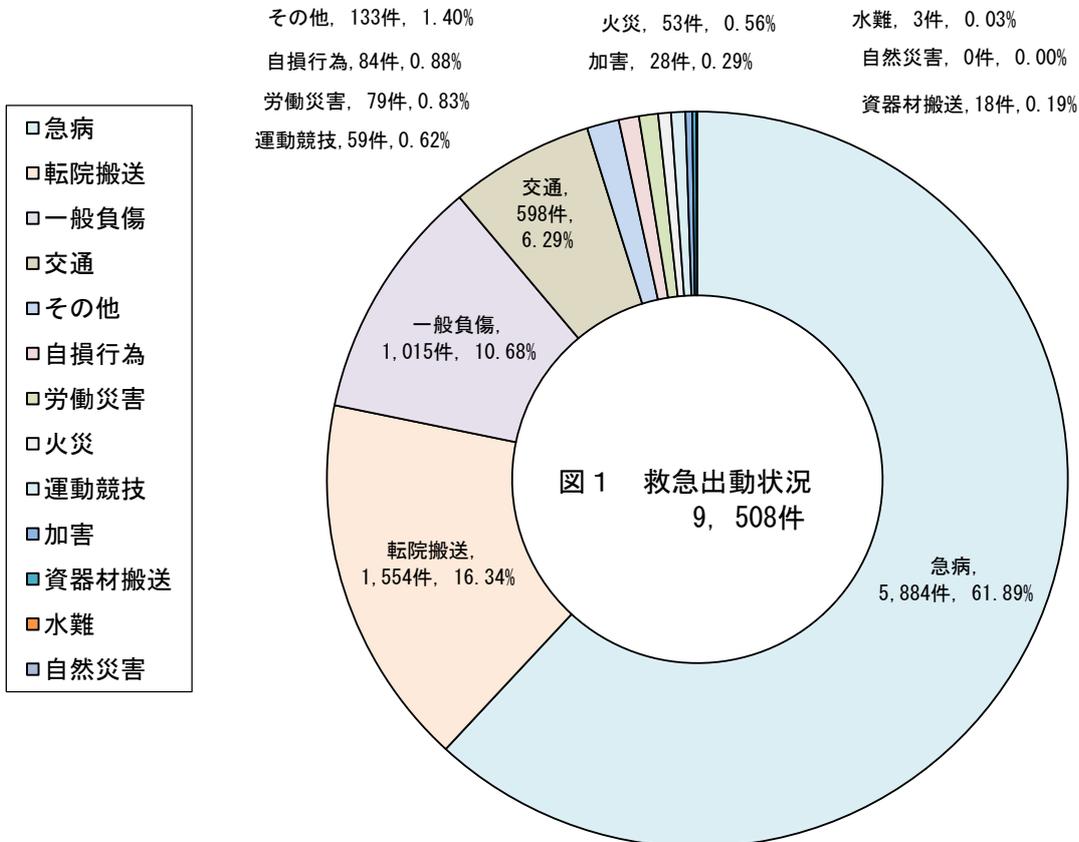
平成29年中における救急出動件数は、9,508件(前年比156件増)で搬送人員が8,883人(前年比145人増)となりました。これは一日平均で26件(約55分に1件)の割合で救急隊が出動し、管内の約23人に1人が救急隊により搬送されたこととなります。(表1・図1)

表1 平成29年救急出動状況

区分	年別比較	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
出動件数	平成29年	9,508	53	0	3	598	79	59	1,015	28	84	5,884	1,554	0	18	133
	平成28年	9,352	67	1	6	607	82	73	933	37	96	5,808	1,501	0	21	120
	比較	156	-14	-1	-3	-9	-3	-14	82	-9	-12	76	53	0	-3	13
不搬送件数	平成29年	743	44	0	1	54	2	0	88	7	26	374	3	0	18	126
	平成28年	743	55	0	5	53	1	3	55	9	34	388	3	0	21	116
	比較	0	-11	0	-4	1	1	-3	33	-2	-8	-14	0	0	-3	10
搬送人員	平成29年	8,883	11	0	2	639	79	61	934	21	58	5,518	1,551			9
	平成28年	8,738	14	1	1	661	81	74	879	33	62	5,427	1,499			6
	比較	145	-3	-1	1	-22	-2	-13	55	-12	-4	91	52			3

平成29年中における大崎圏の出動割合

月平均	792件	1日平均	26件	55分に1件
管内人口割合	23人に1人を搬送	管内世帯割合	9世帯に1人を搬送	

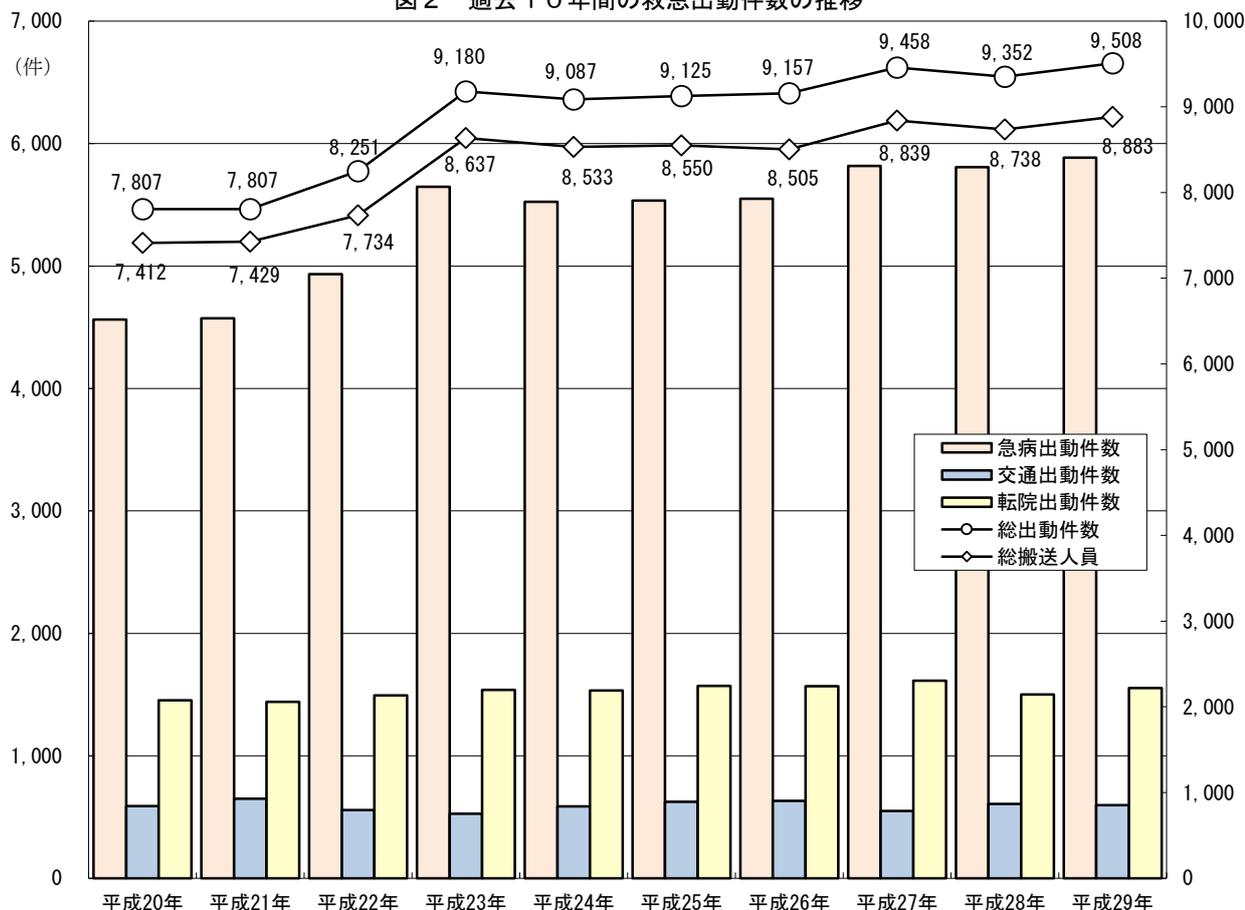


※世帯数・人口は平成29年12月末現在(宮城県住民基本台帳より)

管内世帯数 76,490世帯  
管内人口 204,470人

また、過去10年間の救急出動件数は、平成22年から増加し平成23年から7年連続9,000件を超え、平成28年は減少傾向にありましたが、平成29年は大崎消防本部の統計上、最も多い出動件数となりました。（図2）

図2 過去10年間の救急出動件数の推移



## 2 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

事故種別ごとの出動件数は、急病が5,884件（前年比76件増）と全出動件数の61.88%を占め、次いで転院搬送の1,554件（前年比53件増）、一般負傷の1,015件（前年比82件増）の順となりました。

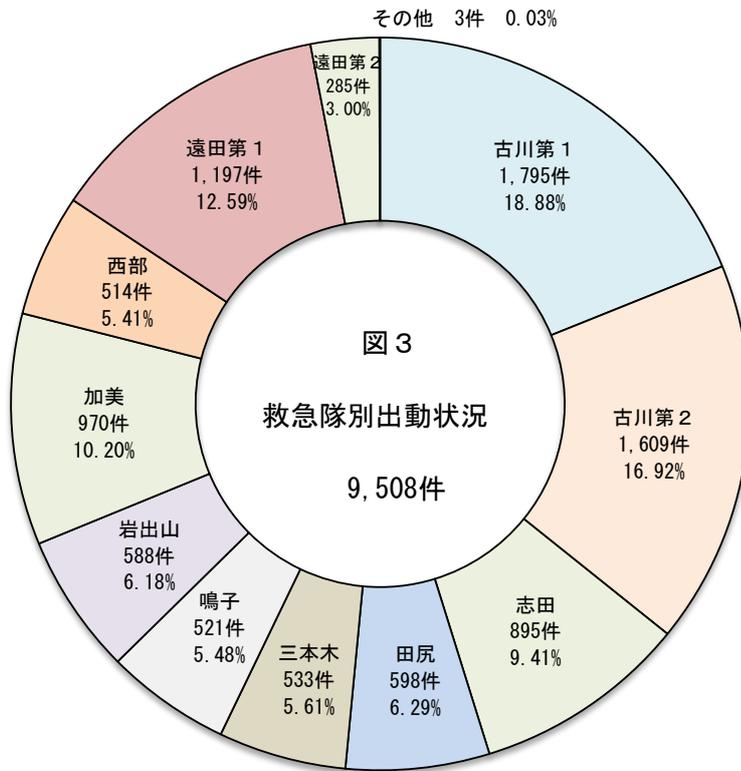
また、搬送人員は、急病5,518人（前年比91件増）、転院搬送1,551人（前年比52人増）、一般負傷934人（前年比55人増）の順となりました。（表1・図1）

## 3 救急隊別出動状況

救急隊別の出動件数を前年比で見ると、合計で156件増加していますが、古川第1・古川第2・志田・三本木・鳴子・岩出山・加美・遠田第2救急隊の出動件数が昨年より増加となりました。（表2・図3）

表2 救急隊別出動状況

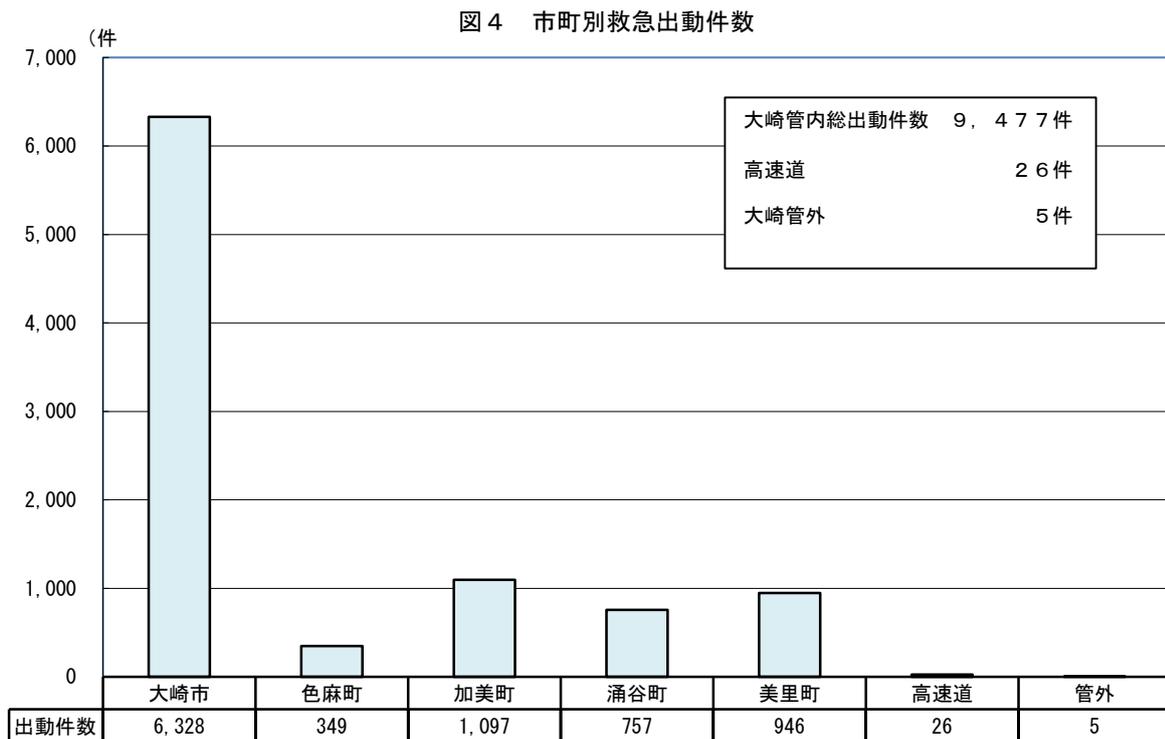
	古川第1	古川第2	志田	田尻	三本木	鳴子	岩出山	加美	西部	遠田第1	遠田第2	その他	合計
平成29年	1,795	1,609	895	598	533	521	588	970	514	1,197	285	3	9,508
平成28年	1,731	1,590	857	635	461	503	572	959	526	1,240	274	4	9,352
比較	64	19	38	-37	72	18	16	11	-12	-43	11	-1	156



#### 4 市町別出動状況

市町ごと（高速道及び管外含む）の出動件数は、大崎市6,328件、色麻町349件、加美町1,097件、涌谷町757件、美里町946件となりました。

また、高速道（東北自動車道）に26件、管外に5件の出動となりました。（図4）



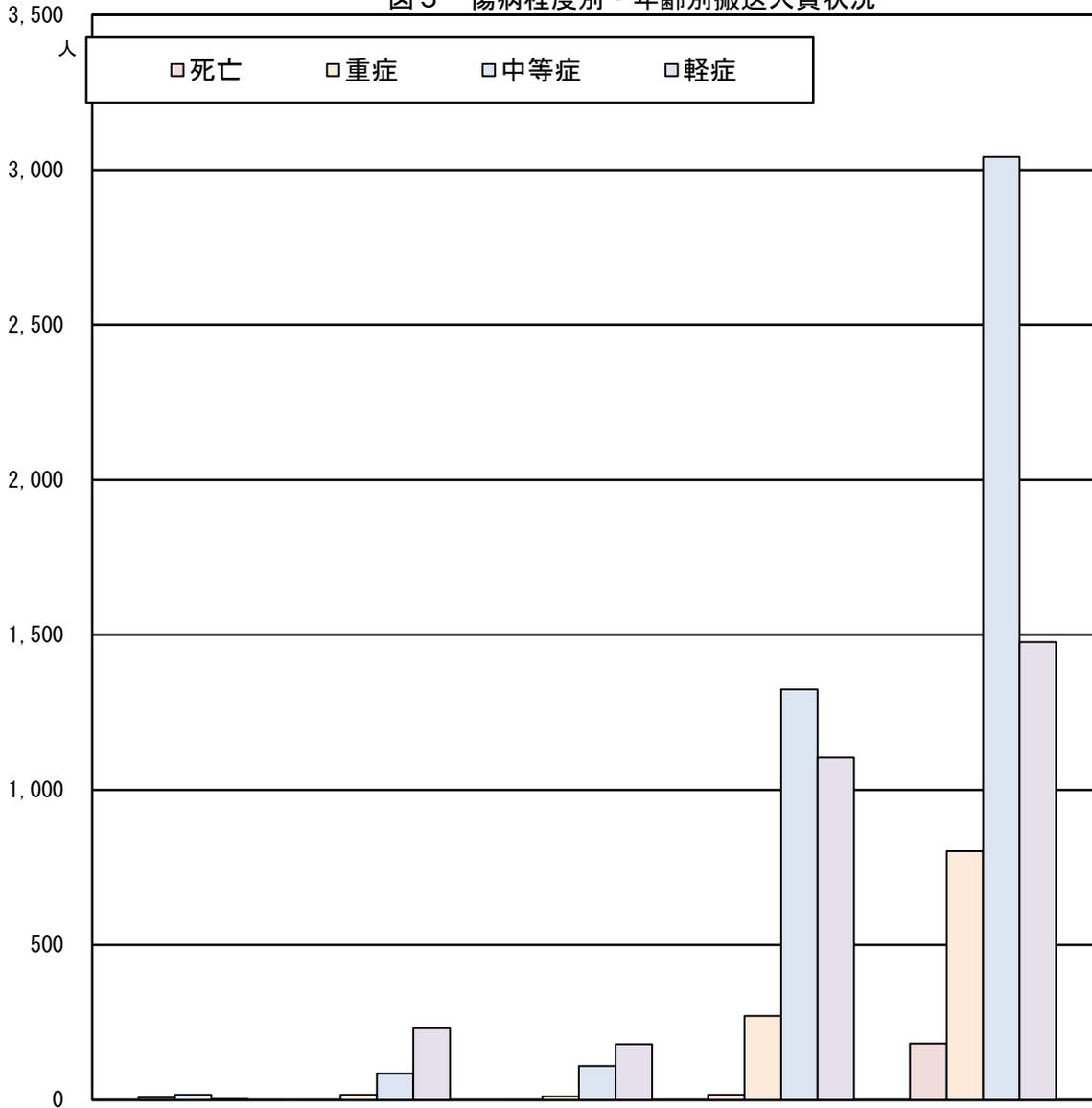
## 5 傷病程度別、年齢別搬送人員状況

搬送した8,883人の傷病程度は、病院収容後に死亡した人が201人、重症が1,109人、中等症が4,578人、軽症が2,995人となりました。

死亡、重症、中等症の傷病者の割合は全体の約66.3%、入院加療を必要としない軽症傷病者等の割合は33.7%となりました。

また、年齢別では高齢者（65歳以上）が全体の約62.0%を占めました。（図5）

図5 傷病程度別・年齢別搬送人員状況



区分	新生児 (生後28日未満)	乳幼児 (28日~6歳)	少年 (7歳~17歳)	成人 (18歳~64歳)	高齢者 (65歳以上)	計
死亡	0	1	1	17	182	201
重症	7	17	11	271	803	1,109
中等症	17	85	110	1,324	3,042	4,578
軽症	3	231	180	1,104	1,477	2,995
合計	27	334	302	2,716	5,504	8,883

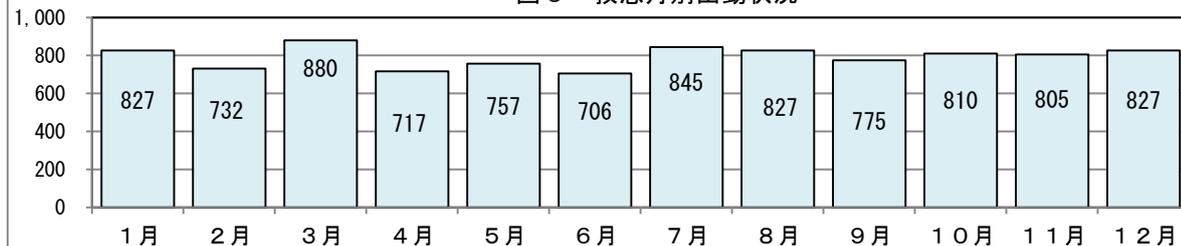
## 6 月別救急出動状況

救急隊の1か月の平均出動件数は約792件で、最も多い月は3月で880件、次いで7月の845件となりました。(表3・図6)

表3 平成29年月別及び事故種別毎出動・搬送等状況

月別	区分	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
1月	出動件数	827	7			45	4	3	95		10	529	119		1	14
	搬送件数	752	1			43	4	3	88		7	488	118			
	搬送人員	765	1			52	4	3	89		7	491	118			
2月	出動件数	732	8			49	1	1	68	4	5	466	118		1	11
	搬送件数	663	1			46	1	1	61	2	3	429	118			1
	搬送人員	670	1			53	1	1	61	2	3	429	118			1
3月	出動件数	880	3		1	46	4	1	102	4	9	545	153		1	11
	搬送件数	816			1	41	4	1	91	3	6	515	152			2
	搬送人員	822			1	45	4	1	93	3	6	515	152			2
4月	出動件数	717	3			38	7	4	80	3	5	438	132		1	6
	搬送件数	678	2			38	7	4	75	3	4	413	132			
	搬送人員	681	3			39	7	4	75	3	4	414	132			
5月	出動件数	757	3			39	5	11	83	5	6	460	130		2	13
	搬送件数	699	1			35	5	11	77	3	4	433	130			
	搬送人員	711	2			44	5	12	78	3	4	433	130			
6月	出動件数	706	2			42	8	12	69	1	6	434	122		3	7
	搬送件数	655				38	8	12	65	1	3	406	122			
	搬送人員	661				43	8	13	64	1	3	407	122			
7月	出動件数	845	4		1	69	6	13	91	3	8	511	127			12
	搬送件数	782	1		1	62	5	13	81	2	8	480	127			2
	搬送人員	804	1		1	80	6	13	82	2	8	481	127			3
8月	出動件数	827	5			43	10	6	92	1	8	513	134		5	10
	搬送件数	763				40	10	6	83	1	4	483	134			2
	搬送人員	773				47	10	6	83	1	4	486	134			2
9月	出動件数	775	7			74	9	3	78	2	6	469	117			10
	搬送件数	724	2			66	9	3	73	1	5	448	117			
	搬送人員	740	2			81	10	3	73	1	5	448	117			
10月	出動件数	810	3		1	49	9	2	82	4	6	506	133		3	12
	搬送件数	747				44	9	2	76	4	5	474	133			
	搬送人員	754				51	9	2	76	4	5	474	133			
11月	出動件数	805	3			51	6	2	82		6	509	132		1	13
	搬送件数	739				44	5	2	76		4	476	131			1
	搬送人員	745				50	5	2	77		4	475	131			1
12月	出動件数	827	5			53	10	1	93	1	9	504	137			14
	搬送件数	748	1			47	10	1	81	1	5	465	137			
	搬送人員	757	1			54	10	1	83	1	5	465	137			
合計	出動件数	9,508	53	0	3	598	79	59	1,015	28	84	5,884	1,554	0	18	133
	搬送件数	8,766	9	0	2	544	77	59	927	21	58	5,510	1,551	0	0	8
	搬送人員	8,883	11	0	2	639	79	61	934	21	58	5,518	1,551	0	0	9

図6 救急月別出動状況

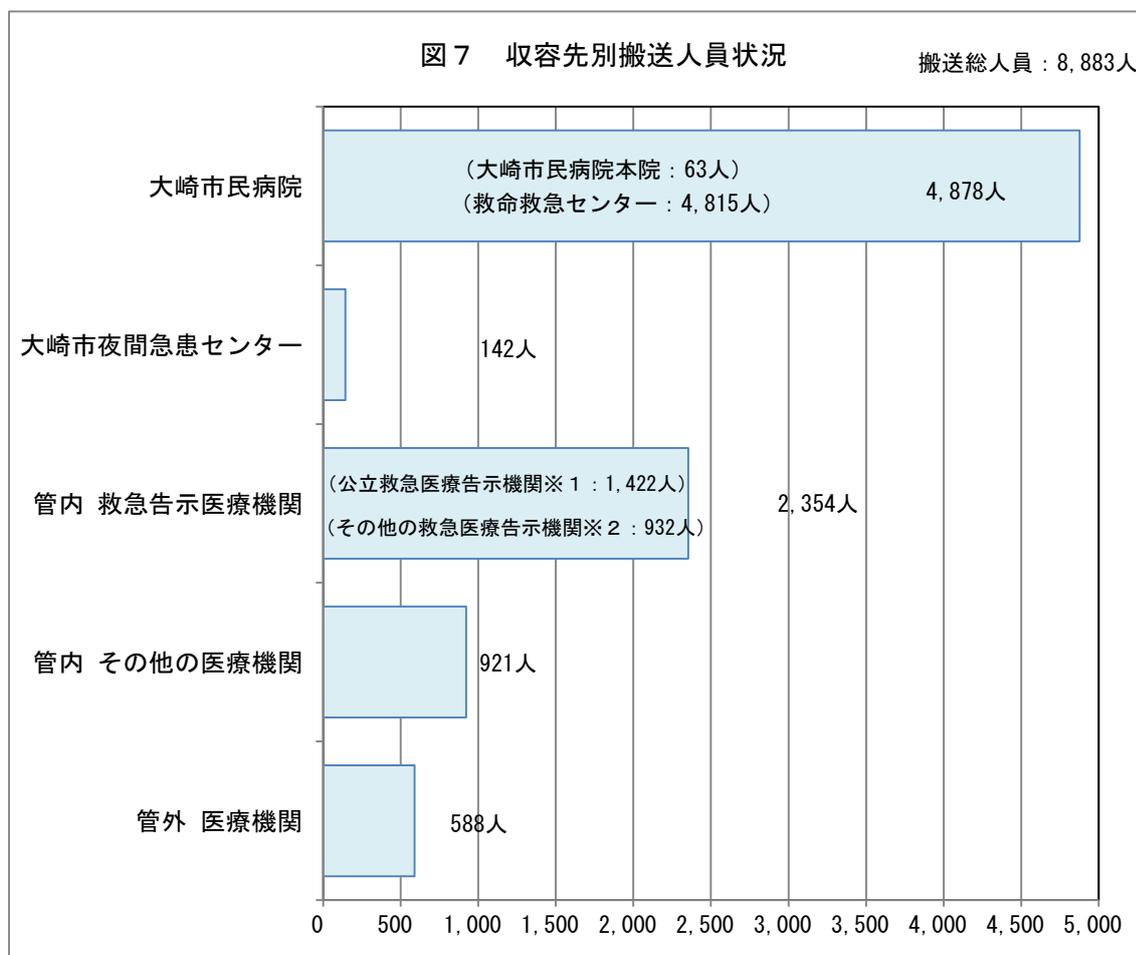


## 7 収容先別搬送人員状況

平成29年中における収容先搬送人員状況は、大崎市民病院（救命救急センター含む）が最も多い4,878人で、その割合は全搬送人員の54.9%となりました。

また、大崎市夜間急患センターへ搬送された人員は142人でした。

大崎市民病院を除く大崎管内の救急告示医療機関に搬送された人員は2,354人で、そのうち公立の救急告示医療機関に搬送された人員は1,422人でした。（図7）



※1 大崎市民病院鳴子温泉分院，大崎市民病院岩出山分院，大崎市民病院鹿島台分院，涌谷町国民健康保険病院，美里町立南郷病院，公立加美病院

※2 古川民主病院，古川星陵病院，徳永整形外科病院，みやぎ北部循環器科，東泉堂病院

「救急病院等を定める省令」（昭和39年厚生省令第8号）第1条による医療機関 平成29年12月1日現在

## 8 ドクターヘリ要請件数状況

平成29年中における大崎消防本部のドクターヘリ要請件数は、37件となりました。

平成29年1月1日～12月31日

出動先	大崎市				加美町		美里町		涌谷町
	鳴子	岩出山	鹿島台	田尻	小野田	宮崎	小牛田	南郷	
現場活動	16件	3件	2件		2件	1件	1件	1件	6件
その他	2件			1件					2件
計	24件				3件		2件		8件

※ その他は要請出動後のキャンセル

9 救急隊員の行った救急処置の状況  
平成29年中の搬送人員8,883人のうち、救急隊員が救急処置を行った傷病者は8,883人（搬送人員の100%）であり、救急処置件数は41,162件となりました。（表4）

表4 救急隊員の行った救急処置件数

平成29年1月1日～平成29年12月31日

応急処置 事故種別 傷病程度	対応 急 重 中等症 軽症 計	止血	固定	人工呼吸	心 マッサージ	心肺蘇生 うち自動	酸素吸入	気道確保				保 運	在宅療法継続			除細動	(静脈P路A路保 前)	(静脈P路A路保 後)	薬剤投与	ブドウ糖投与	その他の 置の応急処	血圧測定	聴診器 取による聴	血中の 酸素測定 酸素和度	血糖測定	心電図	計
								※1	※2	※3	※4		※A	※B	※C												
急	164			3		164	91	162	164	1	6	46	1	81	1	9	77	18	116	9	147	11		155		1,117	
重	617	2	5	6		331	33	331	132	2	4	18		214	3	12	5	15	585	560	331	572	34	547	74	3,459	
中等症	2,810	18	45	9		562	2	562	72	1				770	19	60	23		2,781	2,757	1,136	2,801	82	2,101	154	13,253	
軽症	1,927	30	36			96		96	8					469	9	15	11		1,908	1,801	639	1,924	28	1,118	42	8,101	
計	5,518	50	86	18	0	224	125	1,151	376	4	10	64	1	1,534	31	88	39	115	5,390	5,127	2,253	5,308	144	3,921	270	25,930	
交通事故																											
死亡	4			4		4		4	4			3		2				3				4			4	33	
重	42	11	39			26	1	26	6		1			16	6		2		36	38	28	39		34		286	
中等症	222	36	171			37		37						64	30		1		203	221	127	222		131	2	1,242	
軽症	371	23	215			9		9						57	30				328	354	168	364	1	114		1,663	
その他																										0	
計	639	70	429	0	0	8	1	76	10	0	1	4	0	139	66	0	0	5	570	613	327	625	1	283	2	3,224	
一般負傷																											
死亡	15	1	1			15	3	15	15	2	5	3		6	1			7	9		12	4		14		101	
重	52	5	16	1		18	6	18	14		7	3	1	24	5		4	3	49	45	26	45	1	36		309	
中等症	414	48	147			28		28						95	37	2	3		401	410	103	413	1	169		1,857	
軽症	453	96	94			5		5	1		1			69	92		1		429	408	99	450		141		1,885	
計	934	150	258	1	0	23	9	66	30	2	13	6	1	194	135	2	8	15	888	863	240	912	2	360	0	4,152	
その他																											
死亡	18		2	1		18	5	17	18	1	1	4		7				13			15			16		124	
重	398	1	16	3		1	1	176	14					101	3		1		377	384	96	394		243	13	1,810	
中等症	1,132	18	65			280	6	280	6					282	13	3	2		1,094	1,104	278	1,128		640	47	4,913	
軽症	244	14	22			17		17						59	11				236	238	55	243		114	5	1,009	
計	1,792	33	105	4	0	19	6	490	38	1	1	4	0	449	27	3	2	14	1,720	1,726	444	1,765	0	1,013	65	7,856	
合計																											
死亡	201	1	7	4		201	99	198	201	4	12	56	1	96	1		11	100	141	9	178	15		189		1,375	
重	1,109	19	76	10		71	41	551	166	2	12	22	1	355	17	12	2	8	1,047	1,027	481	1,050	35	860	87	5,864	
中等症	4,578	120	428	9		907	78	907	78	1				1,211	99	65	1	28	4,479	4,492	1,644	4,564	83	3,041	203	21,265	
軽症	2,995	163	367			127	9	127	9		1			654	142	15	12		2,901	2,801	961	2,981	29	1,487	47	12,658	
計	8,883	303	878	23	0	274	141	1,783	454	7	25	78	2	2,316	259	93	3	9	8,568	8,329	3,264	8,610	147	5,577	337	41,162	

気道確保

1 在宅療法

- ※1 経鼻エアウェイを使用している気道確保
  - ※2 喉頭鏡・マギール鉗子等による異物除去
  - ※3 救命処置のうち、ラリゲアルマスク等を使用
  - ※4 気管挿管：気管内チューブによる気道確保
- 1 在宅療法  
 ※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの  
 ※B 気道切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外挿処置が施されているもの  
 ※C ※A、※B以外の処置が施されているもの  
 2 計欄については、止血から心電図までの集計である

## 10 PA連携出動状況

PA連携とは、消防ポンプ自動車（Pumper）が、救急要請内容により出動し、救急車（Ambulance）の活動を支援する連携活動のことで、双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。

当消防本部では、平成18年2月1日から心肺機能停止傷病者等に、いち早く応急処置を行うため、直近のポンプ車が救急車より先に到着すると判断した場合、ポンプ車隊を出動させ、救急活動を支援する連携活動を行っています。（図8～10）

図8 PA連携署所別ポンプ車出動状況

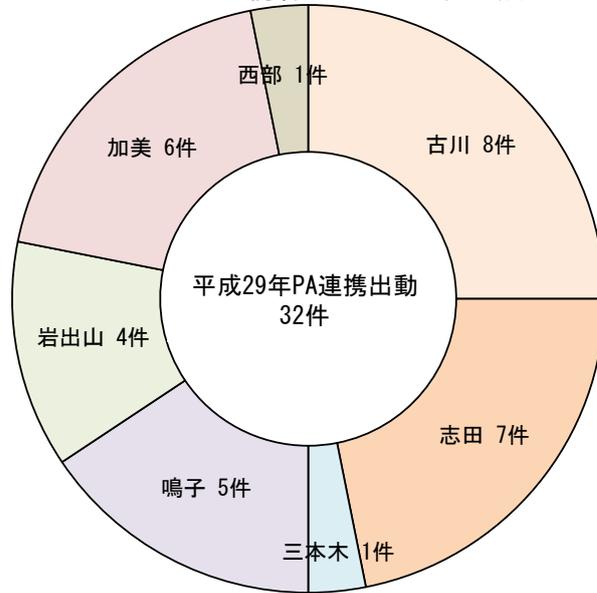
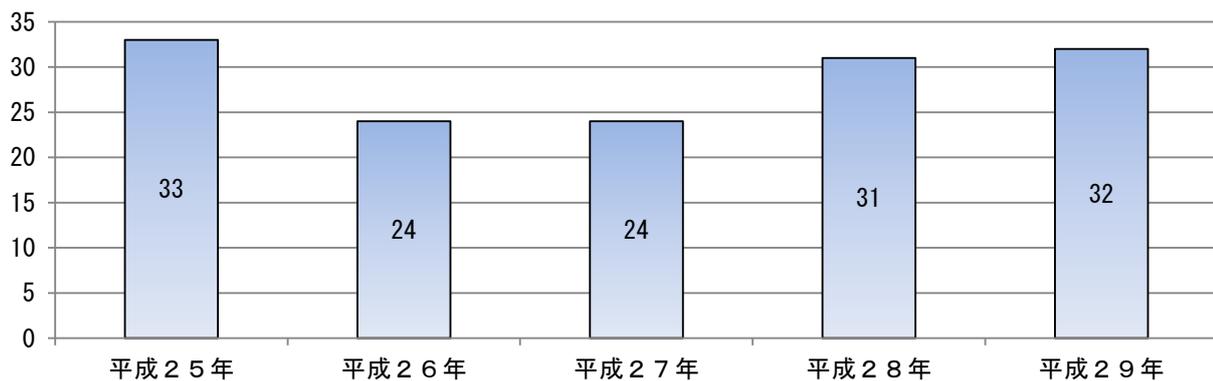


図9 PA連携事故種別



図10 過去5年間のPA連携出動件数



### 第3章 応急手当講習会等の概要

#### 1 講習会の開催状況

平成29年中における応急手当講習会等実施状況は、地域住民、学校、事業所等を対象として、普通救命講習会（講習時間3時間）は185回3,610人、上級救命講習会（講習時間8時間）は6回168人、普及員講習会（講習時間24時間）は1回8人、平成24年から小学生（高学年）を対象に開催している救命入門コースは11回383人が受講しました。

それぞれの救命講習の受講者には「普通救命講習修了証」「上級救命講習修了証」「応急手当普及員認定証」「救命入門コース認定書」を交付しています。

また、簡単な応急手当を学べる「応急手当講習会」を173回開催し、3,867人が受講しました。（表1）

表1 講習会別受講人員

平成29年1月1日～平成29年12月31日

種 別	開催回数	受講人員	内 容
普通救命講習会	185回	3,610人	心肺蘇生法（成人）・大出血時の止血等の講習（講習時間3時間）
上級救命講習会	6回	168人	心肺蘇生法（成人・小児・乳児）・大出血時の止血・傷病者管理・外傷手当・搬送法等の講習（講習時間8時間）
普及員講習会	1回	8人	事業所・地域団体等の従業員に対して、普通救命講習を指導できるための講習（講習時間24時間）
救命入門コース	11回	383人	対象者を小学生中高学年以上（概ね10歳以上）とし、カリキュラムは胸骨圧迫とAEDの使用法
応急手当講習会	173回	3,867人	病気・ケガ・事故等の時、医師の治療を受けるまでの簡単な応急手当の講習
合 計	376回	8,036人	

## 2 性別・年齢別受講者の状況

受講者の年齢構成は、10歳代が最も多く、次いで50歳代、40歳代の順となっております。  
性別構成は、男性と女性の割合がほぼ同じとなっており、男女共に中高生の普通救命講習の参加者が多い結果となりました。（表2）

表2 講習会別・性別・年齢別受講人員

平成29年1月1日～平成29年12月31日

種別	年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上	合 計
	性別									
普通救命講習会	男	865	148	249	251	233	183	47	2	1,978
	女	779	106	132	167	195	213	39	1	1,632
	合計	1,644	254	381	418	428	396	86	3	3,610
上級救命講習会	男	7	4	9	13	9	23	9	2	76
	女	49	11	13	9	7	2	1	0	92
	合計	56	15	22	22	16	25	10	2	168
普及員講習会	男	0	1	1	0	3	1	0	0	6
	女	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	合計	0	1	1	1	4	1	0	0	8
救命入門 コース	男	206	/	/	/	/	/	/	/	206
	女	177	/	/	/	/	/	/	/	177
	合計	383	0	0	0	0	0	0	0	383
総 合 計		2,083	270	404	441	448	422	96	5	4,169

### 3 講習会開催の推移

平成9年から開催してきた各種救命講習会の総受講者数は、平成29年までの21年間で66,743人となりました。(表3)

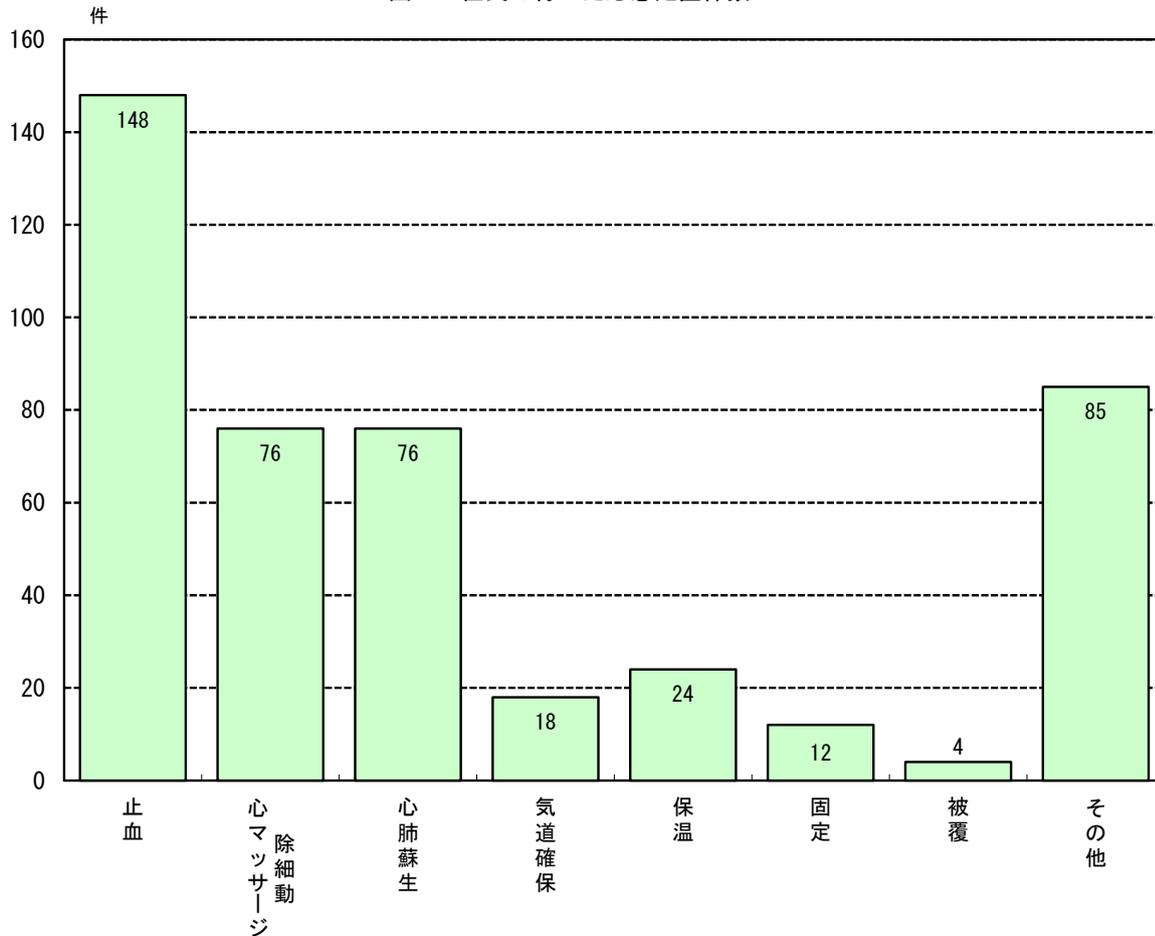
表3 講習会別開催回数・受講人員(平成9年～平成29年)

種別	年別	回数	性別		合計
			男性	女性	
普通救命講習会	平成9年 ～平成18年	1,082	11,622	13,171	24,793
	平成19年	177	1,740	1,869	3,609
	平成20年	192	2,021	1,943	3,964
	平成21年	176	1,720	1,785	3,505
	平成22年	165	1,728	1,605	3,333
	平成23年	133	1,257	1,026	2,283
	平成24年	152	1,455	1,508	2,963
	平成25年	194	2,034	1,965	3,999
	平成26年	172	1,753	1,772	3,525
	平成27年	173	1,556	1,664	3,220
	平成28年	146	1,380	1,270	2,650
平成29年	185	1,978	1,632	3,610	
小計	2,947	30,244	31,210	61,454	
上級救命講習会	平成11年 ～平成18年	45	464	979	1,443
	平成19年	5	53	118	171
	平成20年	5	59	112	171
	平成21年	8	87	185	272
	平成22年	7	68	132	200
	平成23年	8	97	82	179
	平成24年	7	54	123	177
	平成25年	5	77	64	141
	平成26年	6	47	100	147
	平成27年	7	56	96	152
	平成28年	8	88	113	201
平成29年	6	76	92	168	
小計	117	1,226	2,196	3,422	
普及員講習会	平成12年 ～平成18年	8	108	164	272
	平成19年	2	2	11	13
	平成20年	1	10	13	23
	平成21年	1	9	8	17
	平成22年	2	7	16	23
	平成23年	1	3	3	6
	平成24年	3	8	10	18
	平成25年	1	3	3	6
	平成26年	1	3	6	9
	平成27年	2	17	2	19
	平成28年	1	5	2	7
平成29年	1	6	2	8	
小計	24	181	240	421	
救命入門コー ス	平成24年	1	64	71	135
	平成25年	3	52	66	118
	平成26年	8	120	143	263
	平成27年	6	125	113	238
	平成28年	9	147	170	317
	平成29年	11	206	177	383
小計	38	714	740	1,454	
合計		3,126	32,365	34,386	66,751

#### 4 講習会の効果

応急手当講習会等の効果として、救急隊が傷病者のもとへ到着するまでに家族や友人、さらには傷病者の近くにいた住民等による応急手当が443件実施されました。（図1）

図1 住民の行った応急処置件数



また、救急隊が搬送した278人の心肺機能停止傷病者に対して、住民により心肺蘇生法（心マッサージ・人工呼吸どちらかも含む）が実施された傷病者は140人（50.4%）で、そのうち救急隊が傷病者を医師に引き継いだ時点で8人（5.7%）の方が心拍又は呼吸が再開しました。

## 第4章 救助統計

### 大崎管内における救助概要

平成29年中における救助活動実施状況は、出動件数63件（前年比20件減）救助人員41人（前年比21人減）となりました。（図1、図2）

事故種別ごとでは、交通事故が44件と出動件数全体の69.8%を占めております。（図1）

図1 救助出動概要

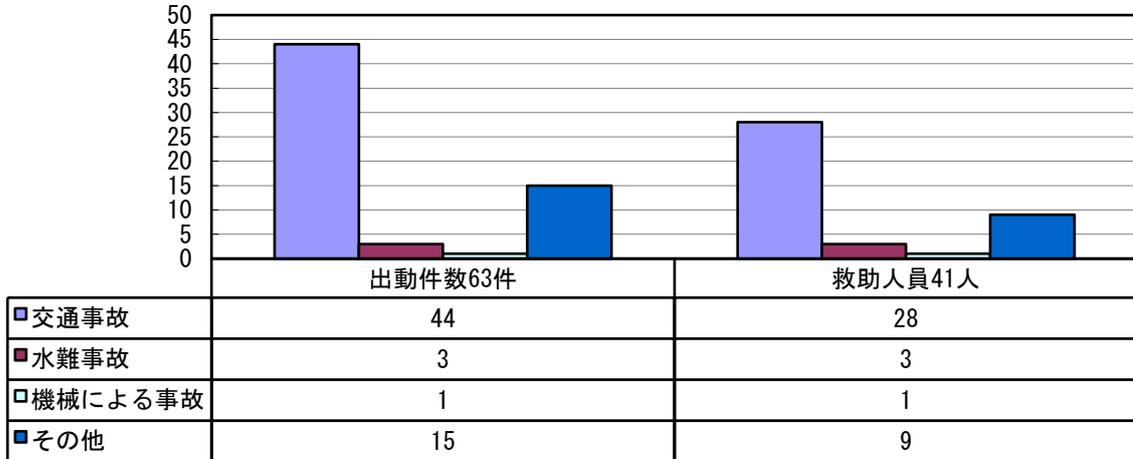


図2 過去5年間ににおける救助概要

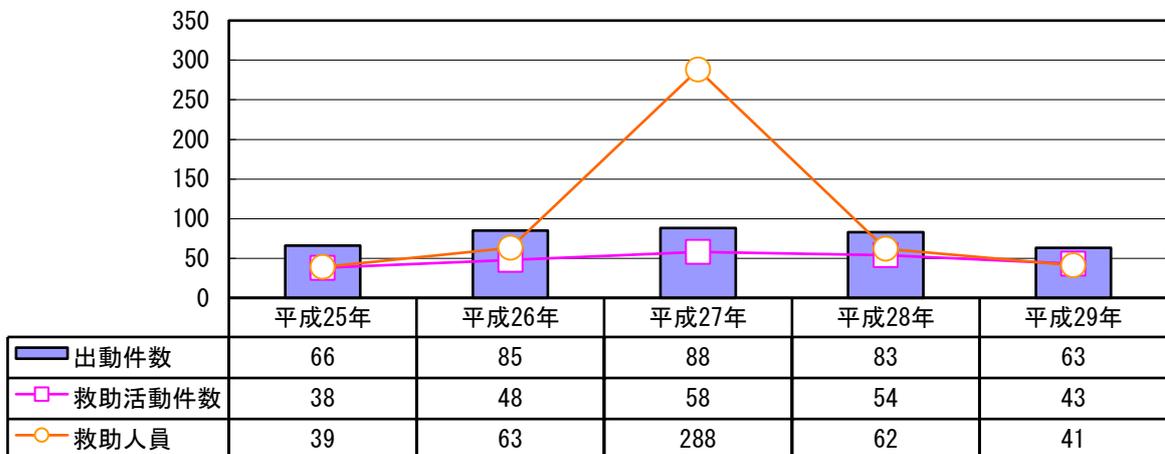


図3 救助事案発生場所

